

日本科学未来館主催の企画展「地下展」についての報告

Miraikan Special Exhibition: UNDERGROUND - Adventure in the Darkness Created by Imagination and Science

松岡 均 [1]; 竹内 恵 [1]; 森田 由子 [1]; 小岩井 理美香 [1]; 櫻井 英雄 [1]; 松島 淳一 [1]; 米原 遊 [1]; 岡山 悠子 [1]; 干場 真弓 [1]; 橋 美由紀 [1]; 杠 知子 [1]; 出井 正道 [1]; 谷井 裕美子 [1]; 荻田 麻子 [1]

Hitoshi Matsuoka[1]; Kei Takeuchi[1]; Yuko Morita[1]; Rimika Koiwai[1]; Hideo Sakurai[1]; Junichi Matsushima[1]; Yu Yonehara[1]; Yuko Okayama[1]; Mayumi Hoshiba[1]; Miyuki Tachibana[1]; Tomoko Yuzuriha[1]; Shodo Idei[1]; Yumiko Tani[1]; Asako Ogita[1]

[1] 未来館

[1] Miraikan

<http://www.miraikan.jst.go.jp/>

日本地球惑星科学連合の協力で開催された企画展「地下展～空想と科学がもたらす闇の冒険」(主催:日本科学未来館、朝日新聞)について報告する。本企画展は、2007年9月22日から2008年1月28日まで日本科学未来館(東京都江東区青海)で行われた。“地球最後のフロンティアである地下を知り、新しい世界観、地球観を認識する”というコンセプトの下で、環境学、生物学、地球科学、惑星科学、天文学などさまざまな研究分野の最先端の研究を取り上げ、科学技術に対する一般の人の関心を高めることを目指した。

展示構成は、それぞれ、“足下からはじまる地下 [都市の地下利用]”、“地下の心がまえ”、“タイムカプセル [Time CapsuleEXPO '70 プロジェクト]”、“ノアの方舟 [北極種子保存庫プロジェクト]”、“地中の宝 [地下資源]”、“地下にゆだねる [放射性廃棄物の地層処分]”、“氷の記憶をほりおこす [氷床コア]”、“誰も見たことのない湖 [南極・ポストーク湖]”、“生命の樹 [全生物の系統関係図]”、“全てはひとつに [コモノート(共通祖先)]”、“地下住人の肖像 [地下生物圏]”、“生命がはじまる場所 [生命起源「地下説」]”、“闇の歴史 [巨大隕石衝突]”、“地球が凍った日 [スノーボールアース]”、“地の底～中心へと行き着く [地球内部のしくみ]”、“地下世界のはじまりと終わり [地球の起源]”、“46億年の時計 [地球システム]”の全部で17セクションからなっている。会場では、専門の解説スタッフやボランティアによる解説や実演を行い、来館者の理解促進に努めた。また、展示と関連してさまざまなイベントも行い、研究内容への関心を高める機会を増やした。

今回の企画展は、監修者、協力者、講演者として多くの研究者に参加してもらい、地球惑星科学コミュニティと一般社会をつなぐ新しい試みであった。講演では、地球惑星科学分野の展示内容や手法の紹介を中心に、来館者からのアンケートの結果などを交え、他分野との融合領域を創造する必要性やアウトリーチ活動の新しい可能性について探る。